

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第25号—

令和元年10月7日
戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

これから大切に育てたい力

2学期も一月が経ち、ようやく朝夕も涼しくなってきました。今週は延期となった小陸競をはじめ、これから学習発表会、通学合宿、マラソン大会など行事がたくさんあります。行事を通して津吉小の子供たちがたくましく健やかに育っていくことを期待しています。

さて、令和2年度より全面実施される新学習指導要領について、少し述べさせていただきます。新学習指導要領では、「主体的、対話的で深い学びの実現」という文言が目を引きまます。また、「思考力、判断力、表現力」という文言も観点として示されています。これらのことは、今に始まったことではなく、従前より重視し、意識しながら指導されてきたことなのですが、今の時代の変化に応じて、必要な資質、能力として挙げられたものだと思います。

将来につく仕事を見据えて勉強するという事は難しいことです。しかし、今勉強していることは、将来につながっているということをお教えることは大切なことです。社会の変化とともに、仕事の種類も変化しています。例えば、「ユーチューバー」という仕事も数年前まではあまり耳にしない職種でした。アメリカのキャシー・デビッドソン氏が、2011年8月にニューヨークタイムズ紙インタビューで語った言葉に、「2011年度にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう」とあります。きっと、これから先今までになかった職業がたくさんできてくるのだろうと予想できます。また、今の子供たちがそういった新しい職業を創り出すのだろうと思います。そのような時代背景の中での、学習指導要領改訂です。

「主体的、対話的で深い学び」とは、簡単に言うと「自分から積極的に考える」「人と考え、話し合いながら創り上げる」「あきらめず、とことんまで追究する」ことです。そのために必要な力が「思考力、判断力、表現力」です。まずは、考える力がないとアイデアも浮かんできません。しっかりと考え、こうしたらどうなるだろうと試行錯誤することが大切です。その結果、これでいこうと判断する。判断するためには、しっかりとした根拠が必要になります。確かに、状況によっては判断することが難しい場面もあるでしょう。それでも、ある一定の根拠に基づき、判断をします。判断したことや、根拠として考えたことを人に伝えなければなりません。どうすれば、自分の考えを的確に伝えることができるか、それが表現力です。考え、判断し、伝えるといった一連の活動が、これから予測困難な時代を生きていくうえで大切になると考えています。

津吉小学校では、今年度、『主体的に考え、伝え合い、深めることのできる子どもの育成』を研究主題にして、校内研修を進めています。各学級担任は全員、この研究主題に基づいて研究授業を行い、その具現化に努めています。

